

争いのない世界の実現へ

未来へ平和をつなげよう

守能 弘

私は昭和15（1940）年1月、神戸市須磨区板宿で生まれました。

そして父親の仕事の関係で大阪市東淀川区（現淀川区）に引っ越しをした後に、太平洋戦争を経験し、命を5回ほど落としかける恐ろしい目に遭いました。

防空壕の中に焼夷弾

初めは、防空壕に逃げ込んだ時のことです。隠れている所に、爆撃機からの焼夷弾が壕の中に落ちてきて焼け死ぬところでした。

戦闘機から機銃掃射。そして…

第2は、防空壕へ避難した時のことです。

住んでいた家の近くに十三公園という公園があり、公園を抜けた先に大きな防空壕がありました。

空襲があり、防空壕へ逃げ込む時、壕の入り口で戦闘機（戦闘機）から機銃掃射を受け、自分の体の約1分の所を機銃弾が土煙をあげて、通り抜けるのを横目に見ながら防空壕に逃げ込みました。

避難してから少し時間が経つと、防空警報が解除になりました。

壕の外に出ると、大人たちがある方向に指をさしていました。目を向けると、北野中学校（現府立北野高）が真っ赤に燃え上がっており、自分た

「川の本流と繋がっているが、河川構造物などに囲まれて池のようになっていく地形のこと。

ちが立っている所からでも熱気を感じるほどでした。

河岸が火事に

第3は、十三公園近くの防空壕から少し抜けた先の新淀川に避難した時のことです。

堤防から下ると、そこは湾処^{わんど}となっており、ヨシがたくさん生えていてその中に身を隠していました。周りのヨシに火が燃えうつり、なんとか水をかけて消しながら、身を潜めていました。

家の近くに爆弾落下

第4は、母親に連れられて家に帰った時のことです。

家の近所に500発の爆弾が二つ落ちていました。一つは道端に、残りの一つは向かいの三軒隣の大屋根を貫いて落ちていました。どちらも不発弾でしたので周りの家も自分の家も助かりました。

自宅に銃弾

最後は、昼食を家族と一緒に食べていた時のことです。

防空警報が鳴り、戦闘機（戦闘機）の機銃掃射^{きじゅうそうしや}がありました。その一発が、屋根の瓦を貫き、天井を抜けて私が座っている所の後ろのふすまに当たり、穴を開けました。

この時、慌てて立っていたら、頭を撃ち抜かれ、今の私は生きていなかったと思います。

私が思うこと

こんな恐ろしい事は二度と経験したくありませんし、また戦争の悲劇も味わいたくありません。世界が平和であることを願います。

（「広報伊丹」令和2年8月1日号掲載）

ヨシまたはアシは、イネ科ヨシ属の多年草。河川及び湖沼の水際に背の高い群落を形成する。